第2号

愛鳥教育

1980
11月

〒150 東京都渋谷区南平台町8－20 (財)日本鳥類保護連盟内 愛鳥教育研究会

第2回 愛鳥教育研究会の報告

5月17日の発会式についで、第2回の研究会を、夏休みを利用して、以下のように行ないました。報告します。ご挨拶をいただきました中村廉環境庁鳥獣保護課長、講演下さいました国立自然教育園の矢野亮先生、研究発表に遠路かけつけて下さった形原北小学校の田中司、渥美守久、鈴木武一先生に厚く御礼申上げます。

1. 日時 昭和55年8月23日 9時30分 ― 4時
2. 場所 東京都港区・国立科学博物館附属自然教育園
3. 内容
   1) 挨拶・愛鳥教育研究会会長 田村 活三
      ・環境庁鳥獣保護課長 中村 廉 氏
      ・日本鳥類保護連盟専務理事 鈴木 秀男氏
   2) 講演「自然観察の方法について」
      国立自然教育園 矢野 亮先生
   3) 研究発表「広げよう愛鳥の輪を」
      愛知県蒲郡市立形原北小学校
      田中 司校長
      渥美守久教諭
      鈴木武一教諭
   4) 意見交換会
   5) 理事会

当日は暑さの上に雨降りでしたが、関東近県のみならず、広島、愛知、三重など遠方からの参加もあり、40名程で研究会を行ないました。会場をご提供下さいました国立自然教育園森永園長、参加の皆様にお礼申上げます。

以下はその時の講演と研究発表の要旨です。

講演

「自然観察の方法について」

国立科学博物館附属自然教育園研究員 矢野 亮 先生

東京都港区にある自然教育園では、どのような仕事が行なわれているのかを豊富なスライドで詳しく解説していただいた。

残念ながら、そのスライドを紹介できないが、園内の動植物の観察、調査活動の状況のお話であった。シジュウカラのなわばり調査、シイの葉を食べるスダジイモグリチビガ、アオキミタマバエが、アオキの実に大量発生した実態、ジョロウグモの成長とえさの変化の調査、アゲハチョウの調査、ヒキガエルの生態の調査等々、身近かな動植物の調査の状況をうかがい、得ることが多かった。

後半は、園内を、2グループにわかれて、自然観察の方法を実地に指導いただいた。

以下、資料をもとに自然教育園を紹介する。

1. 自然教育園の概要

(1) 歴 史

自然教育園の歴史は、今から500年程前に、

地方豪族（後にその子孫は白金長者と呼ばれたらしい）がこの地に屋敷を構えた。そしてその周囲に外障として二重三重に土塁を築いたのが、現在園内に残っている土塁と考えられている。

その後江戸時代（高松藩主・松平讃岐守頼重の下屋敷および抱屋敷）、明治時代（政府に移管され、陸海軍の火薬庫として使用）、大正時代（火薬庫が廃止され、白金御料地として宮内庁所管）を経て、戦後国有地として大蔵省に所管され、昭和２４年４月文化財保護法によって史跡および天然記念物に指定された。さらにこの地域の自然を保護・保存すると共に、ここの特性を活かしつつ自然教育の場として活用することを目的として、名称も国立自然教育園と改められて一般に公開されることになった。

(2) 自然環境

周囲を高層ビル、マンション、住宅等で囲まれた自然教育園であるが、１０年程前に首都高速道路建設のため周辺の一部を削られたが、現在でも約２０haの面積を有している。

園内は海抜16～40mの起伏に富んだ地形で、その中に台地や湿地があり、さらに今も２カ所から涸れることなく水が湧いている。園内は、建物とその周囲および教材園や休憩施設を除き、大部分は、森林植生で被われている。

植生は、主としてスダジイ林、マツ林、コナラ林、ミズキやウワミズザクラなどの雑木林、湿原などから成っている。

スダジイ林は幅５～15mの土塁上に帯状に植栽されたもので、推定樹令約400～500年で、約250本残っている。

マツ林は、アカマツとクロマツがほぼ半々ずつ混在した林として園内の数カ所に散在している。

コナラ林も園内の数カ所にあり、一部の場所では、胸高直径40～50cmもある樹令100年を越すと思われる巨木が生育している。

この他、ミズキやウワミズザクラ・ヤマザクラ・コナラなどを主とした雑木林が広く園内を被っている。また、南西部から北部にかけては浅い谷になっており、一部は溜水して水生植物教材園として利用されているが、その他の地域は広く湿原になっている。

これまで確認された植物は、種子植物718種、羊歯植物47種、蘚苔植物62種、などである。

動物のうち昆虫類は、昭和27年の調査でトンボ類29種、鱗翅類379種、甲虫類354種など記録されている。

鳥類は、これまで100種が記録され、一年を通じて、40～50種が現在でも観察される。

この他、イシガメ、トカゲ、アオダイショウ、ヒキガエルなどの爬虫類や両棲類もまだまだ多く

お知らせ

全国鳥獣保護実績発表大会 が開かれます。

主催　環境庁、日本鳥類保護連盟
後援　文部省、林野庁
日時　昭和55年12月１日(月)午前10時より
場所　環境庁２階第７会議室（千代田区霞ケ関３－1－1、合同庁舎４号館、地下鉄虎ノ門駅または霞ケ関駅下車４分）
発表者
1. 北海道　白老町立飛生小学校
2. 福島県　矢祭町立内川小学校
3. 茨城県　潮来町立潮来第一中学校
4. 埼玉県　大滝村立上中尾小学校
5. 千葉県　千葉市立土気中学校
6. 富山県　砺波市立栃檀野小学校
7. 愛知県　豊橋市立豊岡中学校
8. 滋賀県　甲南町立第三小学校
9. 広島県　東城町立帝釈小学校
10. 熊本県　高森町立野尻小学校
11. 沖縄県　沖縄県立美里高等学校

全国各県から推された中よりさらに選ばれた11校が発表します。当研究会の会員校もあります。会員の皆様には大変に参考になると思いますので、どうぞお出かけ下さい。参加は無料です。

なお、12月２日(火)午前10時より正午まで環境庁会議室で鳥獣保護に関する意見交換会が開かれます。これも参加は自由です。

生息している。

2. 環境教育普及事業

(1) 教材園

東京およびその近県で自生あるいは繁殖している生物のうち自然教育に適したものをそれぞれの適地に植栽または飼育し、同時にこれらの地域から消滅しつつある種の保存・繁殖も合わせ行なっている。教材園に植栽されている主な植物には、種名と科名を記入した簡単なラベルがつけられている。

教材園は、自然の地形をうまく利用して5ケ所〔○植木園（約650㎡）　○路傍植物教材園（約1,200㎡）○武蔵野植物教材園（約3,000㎡）○水生植物教材園(約2,900㎡）　○小鳥の森 〕に設置されており、入園者は観察路（幅2－3ｍ）から容易に観察できる。

また、教材園で観察できる生物を対象にして、それぞれ適した時期に設問板や日曜野外案内による案内指導もしている。

(2) 一般入園者を対象とした案内事業

設問板による案内（園内の自然でその時期によく観察でき、しかも興味ある事象について質問し、解説することによって、親しみながら自然を知り、さらに自然愛護の気持を育てるために行なわれている）、解説板による案内（自然教育園の概要や歴史および生態学的基礎概念などを図入りで解説し、9カ所に常設されている)、インセクタリウム案内、日曜野外案内、団体案内など行っている。

(3) その他

その他に、自然観察会や各種構座（生態学構座、自然保護研究構座、野外生態実習）などを開設している。

3. 調査・研究

自然教育園の自然を維持・管理していくことはもとより、種々の環境教育をより効果的に実施するためには、その指導にあたる専門職員の資質の向上が要求される。

そのために、本園は勿論、関東を中心とした自然を対象に個人レベルで、あるいは組織レベルで調査・研究が行なわれている。

個人レベルでは、植物生態、鳥類生態、昆虫生態など、それぞれの専門分野において園の内外で調査・研究がなされている。

また、機関研究として、本園の専門職員を中心に外部の研究者と共に共同研究を、昭和48年から実施し、あらゆる角度からヒキガエルの生態を調査している。

このほか、月に1～2回実施される「野外生態調査」は、東京およびその近県の山地や河川などへ専門分野が異なる職員が一緒に出かけ調査するものである。

こうした調査は、野外で実際に接しながら、互いに知識を交換し、教育しあうことになり、他の分野の知識も豊富になる。このような自己の専門分野だけにとらわれず、広く他の分野の知識をも積極的に得ることは、環境教育を実践する上で大いにプラスとなる。

研究発表

「広げよう　愛鳥の輪を」

―― 中の川自然学習の強化と愛鳥活動の拡充 ――

愛知県蒲郡市立形原北小学校　**遥美　守久，鈴木　武一先生**

1　形原北小学校の概要

本校は、愛知県蒲郡市屋敷田にあり、東は三河湾、西に三ケ根山という海と山に囲まれているせまい地域である。従って海辺の鳥、山の鳥、田畑の鳥などが観察できるところである。しかし、一方、三河湾を埋めたてて宅地化する開発も進められ、都市化の波に洗われているという現象も見逃すことができない。都市化による人口増も激しく、昨年春の本校転入生は120名にものぼっている状態である。

児童数は836名、学区総人口6840名、戸数は2113戸。父母の職業は、主に会社員、製造業、建設業、公務員が多い。

ア　教育目標

○自主創造の精神にみちた実践力のある子ども

考える子……知育

自ら考えつくり出し、筋道立てて解決できる

子を育てる

強い子……体育

自ら体をきたえ、最後までやりとげる子を育てる

明るい子……徳育

明朗で思いやりがあり、礼儀正しく節度のある子を育てる

働く子……調和と統一

はたらく楽しさを知り、すすんで責任を果たす子を育てる

イ　教育目標と愛鳥活動の関連

教育目標を具現化するための重点努力目標として、6項目を設定した。

愛鳥活動は「緑化、愛鳥、花づくり」の柱に組み入れられ、次のようなねらいのもとに運営されている。

- ○直接経験や体験的な学習を重視し、物の見方、考え方の育成を図る。
- ○自主活動による勤労と協力と連帯の涵養を図る。
- ○豊かな人間性を育てるための教育環境を整備する。
- ○家庭や地域社会との連携を密にし、健全な児童の育成を図る。

これらをさらに深めるものとして、学校全体を包む「地域で学ぶ中の川研究」の推進が図られている。これは、学区を流れる「中の川」の自然を中心に、地域全体を学習していこう、というねらいであり、楽しく活気のある学校づくりを目指している。

2　愛鳥活動の歩み

本校の愛鳥活動の歩みの中から、年度ごとに主なものをあげてみます。

- ○50年4月～学級会活動に自然観察探鳥計画立案実施（学期1回）。
- ○51年2月～国語学習「大造じいさんとガン」をきっかけに、養漁場でカモの群れを観察。野鳥クラブの誕生。
- ○51年6月～ひばりが校庭に巣づくりし、児童会で話しあい保護活動を始める。以後、巣立ちまで、観察、保護。NHKTV、CBCTV、中日新聞等で紹介され、子どもの意欲を高める。
- ○51年10月～学区及び、その周辺の野鳥調査実施。観察地域の設定。

ＰＴＡ活動の一つ、親子探鳥会

- ○52年5月～第一回愛鳥の集いを校内で実施。ふくろうのひなの観察。
- ○53年2月～第6回愛知県鳥獣保護実績発表大会参加、県知事賞の受賞。
- ○53年5月～児童会愛鳥計画学年別目標作成、ＰＴＡ愛鳥活動計画樹立、環境づくり「形北愛鳥の森」構想成立（二年計画）。
- ○54年1月～中の川自然観察学習構想成案。地域学習として自然観察、野鳥観察学習位置づけ。～豊かな人間性、ゆとりと充実を求めて。
- ○54年2月～第7回愛知県鳥獣保護実績発表大会で、県知事賞金賞受賞、愛知県愛鳥モデル校の指定を受ける。
- ○54年4月～ＰＴＡ各部活動の中に愛鳥活動をもりこむ。親子探鳥会、形北愛鳥の森づくり、愛鳥自然観察の推進。
- ○54年5月～蒲郡市の鳥を提案、市長と記念植樹をする。
- ○54年10月～家の庭に小鳥をまねこう運動実施。
- ○54年11月～第14回全国鳥獣保護実績発表大会参加、環境庁自然保護局長賞受賞。
- ○55年2月～鳥獣やすらぎの塚、児童会で作成決定、第9回愛知県鳥獣保護実績発表大会参加。
- ○55年4月～朝日愛鳥作文コンクール、「ひばりの観察記録」入選、同サントリー学校賞受賞。
- ○55年7月～緑化コンクールに初参加。

以上、本校の愛鳥活動は、学級会活動、国語学習、をきっかけに始まり、ひばりの保護をばねに

児童会活動の深まり、教育目標を受けた「中の川構想」への発展、さらには、ＰＴＡ、地域周辺へと発展拡大していった。このような活動の広がりは、「自然が失われ、開発されていく、私たちの町でこそ愛鳥活動、緑化活動は必要である。」という地域ぐるみ、学校ぐるみの姿勢がもたらしたものと言えよう。

3　「中の川研究」について

小さな活動から地域を含めた大きな活動へと広がった愛鳥活動を、もう一度、児童一人一人のものにもどそう、児童一人一人の心の中に、愛鳥の心がどう育ったのか、どう育とうとしているのかというところにもう一度、目を向けようと考えているのが、中の川研究である。「中の川研究」により、授業の中に愛鳥活動を生かすことが、その第一歩である。

以下「中の川研究」のねらい、内容、組織を示す。

(1)　研究主題、地域で学ぶ「中の川研究」の実践

(2)　研究の内容

ア　身近かな素材を集め、教科領域の分野で教材化する

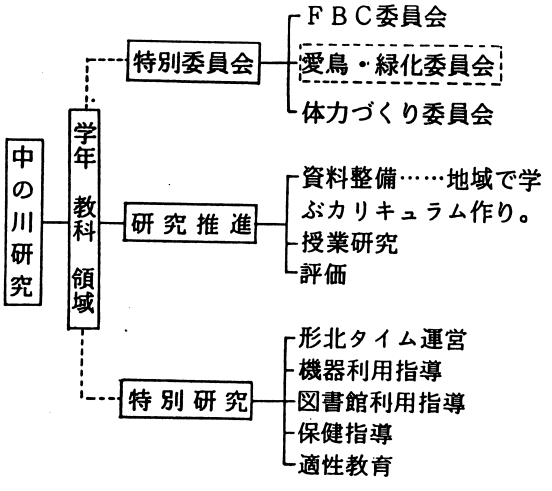
イ　学年研究を重視し、日々の営みの中で子どもを見つめる

ウ　教科領域での「地域で学ぶ」姿勢が表われた形北小の年間指導計画作成につとめる

エ　全職員の研究授業を設定し、効果的な検討を行う

オ　研究活動、研究授業の継続的な累積を行ない日々の営みに反映させる

(3)　研究の組織



(4)　研究計画（略）

この計画の中に年間６回の教師の野外学習研究会が設定され、これにより実際に、自然に接しながら、教師の指導性を高めている。これが緑化委員会の主な活動であり、これらの活動を通して教師集団全体が、愛鳥活動や草花や、地域の自然全体をくわしく知り、子ども一人一人の活動に役立てていく。まず、教師自らが、意欲をもつこと、自然にふれること、そして本当の自然教育は現地から、という共通理解の上で活動を進めている。

4　愛鳥、緑化委員会の具体的な活動

(1)　主旨　健康で豊かな生活を目指して快適で美しい自然的環境を守る。

(2)　中の川構想のとらえ方

地域の自然にふれる中で問題を見つけ、解決していく活動。

基本的な考え	活　動
知る・自然のすばらしさにふれ自然を知る（field　work） ↓ ・おどろき、よろこび ↓ 学ぶ・生きた学習展開 ↓ ・ものの見方考え方の変容 ↓ 守る・自然を大切にする考えと行動	○すべての教科領域の中で ○現地調査、採集など ○遊びの中で ○観察ノート、カードに記入 ○子どもの感動を生かした学習展開 ○教師の指導力の充実 ○作文、その他の表現活動を通して ○生活全体の場で

活動の場

○ 教育活動全般で関連を考えていく

○ 学校裁量の時間，特別活動，各教科

○ 形北タイム ―― 高学年

○ 学級の時間 ―― 高学年・低学年

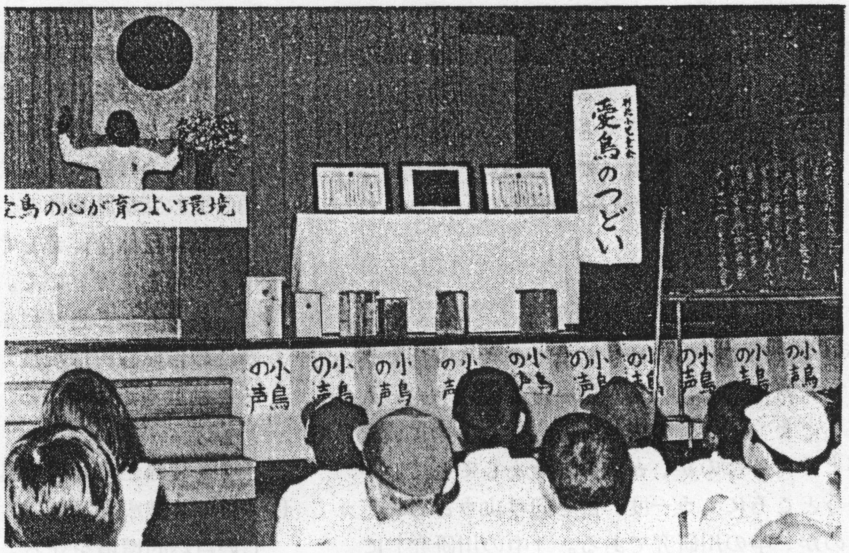
○ 合科教育として ―― 低学年

子どもたちは、自然のすばらしさにふれ、まず、五感を働かせて「知る」ことが大切である。手にふれ、においをかぎ、実際に自然に接することに

より、子どもは、生きた感情を表わしてくれる。そこでとらえた問題をどうとり上げ、教室にもちこむかが大切であり、それは一に教師の力量にかかっている。教室で話し合い練り合う中で、もう一度外へ出る、そういう繰り返しの中から子どもが、真に自然を守る意識を培っていくようになる。

野外へ出る、その回数を多くし、植物や昆虫などを含めた自然に接することにより、野鳥もまた必然的に子どもの中に定着してくるはずである。野鳥だけを対象とした授業は、あえて行なわなくても、自然に出るたびに、うすくうすく接することで良いと考えている。

活動の場としては、上に記したように、形北タイム、学級の時間等を利用し、おしつけない形で自由に外へ出る、ということを実験的にやっているところである。



愛鳥の集い

5　形北愛鳥の森について

ＰＴＡの活動の一つとして次のねらいで校庭につくられた。

(1)　地域の自然理解の入口としての活用（現状点検の結果、欠陥原因をさがして操作修正する）確かめ、まとめの場として。

ア　より自然的森林構成　山草、野草、地域植物、樹木。

イ　名札つけ

ウ　維持管理　子どもの手で（愛鳥、緑化委員会、野鳥クラブ）。

エ　野鳥コーナー　身近かな野鳥の姿絵を表示し親しませる。

なお、人間の気にいったものを残すという考えではなく、あるがままの自然を残すよう配慮している。

6　今後の課題

今後の課題としては、次の点が考えられる。

(1)　野鳥クラブ

○入部条件と活動力の低下の問題

(2)　中の川構想

○自然学習手引き書の作成

○教科領域への細かい位置づけ

(3)　ＰＴＡ探鳥会

○継続の方法

○指導者の確保と養成

○広がってきた愛鳥思想、組織の見直し

(4)　ひとりひとりへ

○愛鳥の心を育てることの見直し

（確かな愛鳥の輪とは？）

なお、愛鳥活動全体についてでは、共通した面（野鳥の種類で言えば、スズメに代表されるような研究などを、愛鳥の柱とする）と、地域によって異なる面があるのではないか、愛鳥活動、即、

自然保護・愛鳥の看板

シジュウカラを主とした活動（愛知県ではシジュウカラは少い）という風潮が感じられること。

ＰＴＡ活動では、会員でなくなったあとの活動をどうするかということ（予算化、組織化を通し、ＰＴＡを離れた形でも、継続をしていけるようにしたい）。

7　愛鳥教育を支えるもの

愛鳥教育活動を支えるものとしてはＰＴＡ、地域の愛鳥活動家、行政担当者、など、多くの方々のご援助、ご協力によりますが、何といっても、教師の力量を高め、一人一人がその気になり、学校全体を動かしていくことが大切であると考える。

このような時、愛鳥教育研究会が発足し、横のつながりをつくり、情報交換することが、真の愛鳥活動を深めることになると思う。

愛鳥観察計画

― 野外学習の中で常に機会をとらえて指導する ―　　蒲郡市立形原北小学校

	ねらい	主な観察範囲	知識	資料活用の習慣	技能	備考 父兄と共に（ＰＴＡ活動）
1年	身近な野鳥に興味を持つ	学校の庭に来る鳥	トビ、カラス、スズメ、セキレイ、ヒバリ、白サギ	図鑑に親しむ、など	かんたんな描画ができる	生活周辺の鳥を話し会ったり、観察する
2年	身近な野鳥に興味を持つ	家の庭やまわりの鳥	ヒヨドリ、ムクドリ、ハシブトガラス、キジバト、ハシボソガラス、モズ	図鑑に親しむ、など	かんたんな描画ができる	同上
3年	地域にすむいろいろな鳥を知る	学校周辺の鳥（田、畑）中の川	カワラヒワ、セッカ、ツグミ、キセキレイ、セグロセキレイ、ハクセキレイ	図鑑で確める、など	特徴をとらえ描画できる	一緒に調べる
4年	海辺の鳥をよく観察し、資料で確かめる態度を身につける	海辺の鳥	コアジサシ、ウミネコ、カワウ、アオサギ、シロチドリ、ユリカモメ、カルガモ	図鑑で確める、など	特徴をとらえ描画できる	同上
5年	山林の鳥の観察と種類などに気づき環境との関係にも気づく	山林の鳥	ホオジロ、キジ、シジュウカラ、ウグイス、メジロ コジュケイ（声）	資料をつくる、図表、グラフ化、など	正しい精密な描画ができる	活動に耳を傾け子どもの調査・観察の活動をはげます
6年	春、秋の渡り鳥を調べ、国から国へ移動する渡り鳥に興味、関心を示す。野鳥や自然保護の大切さがわかる。	渡り鳥	スズガモ、オナガガモ、ヒドリガモ、キンクロハジロ、ホシハジロ、 中の川のシギ類、ノビタキ	資料をつくる、図表、グラフ化など	正しい精密な描画ができる	同上

愛鳥・緑化自然保護活動計画（昭和55年度）

月	野鳥クラブの活動	児童会・学級会活動	学校行事・教科	ＰＴＡ行事	愛鳥・緑化委員会・他
4	クラブ編成 探鳥会オリエンテーション（岩上） 形北の森の世話開始	愛鳥活動（生き物安らぎの墓）づくり 愛鳥活動　児童会表彰開始 愛鳥ポスター、標語のよびかけ	若葉の遠足	ＰＴＡ総会における愛鳥、自然保護計画	愛鳥作文コンクール サントリー学校賞受賞
5	愛鳥のつどいに協力 校内や周辺に住む野鳥 渡り鳥の観察 （シギ、チドリ他）	愛鳥のつどい　5／10(土)の計画 全校自然観察学習	現教（野外学習の指導） 全校野外自然観察学習 （形北タイム）	S,55年度 第１回ＰＴＡ探鳥会（４年対象）５／18 岩上→一色→補陀寺コース	野鳥愛護校に認定される 緑化コンクール参加 （形北の森づくり） 市長よりクスノキがプレゼント（県知事賞ほうび）
6	コシアカツバメの観察 （形原漁港） 水鳥の観察（カイツブリ、カワセミ他）西浦小合同 野鳥の声をきく会	形北植樹祭（記念樹他） 形北の森名前あてコンクール 中ノ川をきれいに（清掃）	高学年野外自然観察学習 （形北タイム）	第２回ＰＴＡ探鳥会（２年） 形中→枯木神社→春日神社→双太山コース	形北の森、樹木の名札つけ完了 形北の森、消毒と手入れ
7	シロチドリ、コアジサシのコロニー観察調査 野鳥の姿の研究	落葉あつめと、昆虫観察		学区河川の美化運動 校内緑化の計画	野草、山草の生きた図書館づくり（野草園） 周辺の山野の樹木調査観察
8	豊橋自然動物園探鳥会 愛鳥作品製作	夏休み作品 （自然をテーマに）		第３回ＰＴＡ探鳥会（５年） 岩上→一色→補陀寺→秋葉神社コース 除草作業	除草
9	渡り鳥の観察 （シギ、チドリ他） もずのはやにえ観察調査	夏休み作品展	運動会 野外学習探鳥コース道標設置	校内生垣き剪定	除草 樹木の剪定
10	秋の学校周辺の野鳥とノビタキ、トビの巣観察 （西村小訪問）	全校自然観察学習 中ノ川をきれいに（清掃）	現教（秋の野外観察指導） 全校野外自然観察学習 紅葉の遠足	第４回ＰＴＡ探鳥会（１年） 双太山→春日神社→枯木神社→形中	台風対策
11	野鳥の好きな木の実観察調査　冬鳥の観察（ツグミ、ジョウビタキ他）		高学年野外自然観察学習	第５回ＰＴＡ探鳥会（３年） 愛知子どもの国探鳥コース	周辺の山野の樹木調査観察
12	給餌台づくりと給餌計画 庭に野鳥を招く運動の推進	冬休み給餌台づくりのすすめ（庭に野鳥を）		家庭の庭に野鳥を招こう	対寒保護作業（落葉作戦）他
1	養漁場のカモ、カモメの観察 観察した野鳥のまとめと校内発表	愛鳥作文コンクール参加		校内緑化推進	寒肥
2	第９回愛知県鳥獣保護発表会参加、巣箱かけ	落ち葉あつめ （形北の森保護）	現教（早春の野外観察指導）	校内緑化推進	形北の森、春の野草保護
3	庭に呼んだメジロ、ヒヨドリのまとめ カモの旅立ち観察	冬鳥カモの観察	お別れ遠足	第６回ＰＴＡ探鳥会（６年） 岩上→鹿島→養漁場コース	周辺の山野に自生する落葉樹と常緑樹の調査
備考	形北愛鳥活動の中核としての諸活動の実践	月一回程度の野外での観察や学習の楽しみの計画と実践 愛鳥活動を子どもの立場から実践させる	学校周辺の環境を生かしたゆとりと充実の自然学習（中ノ川）の推進 学年ごとに計画を具体化する	愛鳥、自然保護活動の地域への啓もう	愛鳥緑化活動のバックアップ 校内推進

55. 8. 23

意見交換会の記録

— 指導者に関する話題 —

○　愛鳥教育を進めるときの指導者、特に野鳥の判別、野鳥の名まえを覚えることなどについて。

○　形原北小では、担当教諭が、ほとんど独学という形で進められてきた。

○　地域との連携、地域にある野鳥の会等にも参加し、研修を積み重ねてきた。

○　学校では、後継者を作っておく必要がある。

— 野鳥の名まえを覚えること —

○　名まえを覚える時は、そこにいる野鳥、そこにある植物などの半分を過ぎるとあとはらくに覚えられるようになる。

○　学校の中の野鳥に明るい指導者を中心に小さな探鳥会（学校にやってきた鳥をみんなでみる）をひらく。「ほらきた、どれどれ」という雰囲気が大切。話をよく聞くことと、子どもの作品を見ること、身近にいたらかけつけて見る、ということの積み重ねで、覚えてきた。

○　野鳥に親しんで5年間はたいへんだが、5年をすぎるとあとは、らくになってくる。

○　鳥を見る機会を多く作ること、たとえば、テレビでも鳥を見るという構えをもつこと。

○　生の鳥を生の指導者に教えてもらう機会を多く作り、指導を受ける。そのために本研究会でも、そういう機会を作るようにしていきたい。

　鳥類保護連盟でも、テストケースとして自然観察会をスタートさせようとしている。ご利用いただきたい。独学でも良いが、活用するのに時間がかかってしまうのでは、困るので、できる限り、こういう機会を利用したい。

— 教師が野鳥について研修すること —

○　教師は、野鳥の会などの探鳥会に参加することは少ない。実態として、市町村教育委員会が主催するものには、研修扱いとして参加しやすい傾向がある。本研究会のような会から、市町村教委主催でできるように働きかけてほしい。

○　教師は、いろいろな制約を受けるので、もっと出やすくしていただきたい。具体的には、指導要領の中に、野鳥を観察したりすることをもりこんでいくようにしたらどうかと思う。

○　この点については、今後各学校が、野鳥を通して、豊かな人間性の育成に役立つようなものを実践を通して積み上げ、ポツポツ出てくれば自然にとり入れられていくだろう。やはり実践が大切です。鳥獣保護実績発表大会なども知ってもらう必要もあります。

○　指導要領は、今度は、教材については、それほど細かく規定していないので、理科教育や道徳教育などの中に教材として愛鳥をとり入れて発表してもらうというような機会を設けてもらうことが大切です。

○　野鳥は、飛んでいて、逃げてしまうので、教材として扱いにくいから、理科の中に入っていないというか、むしろ、できなかった、ということです。

○　教師が野鳥について研修するとき、また、学校が愛鳥教育活動をすすめるとき、外部の指導者の援助、協力も非常に大切であると思う。
校内の後継者を作ることも大切だが、長く続けるためには外部の協力援助が大切になってくる。

○　外部の代表として鳥類保護連盟がありますが学校には、行きにくい雰囲気がある。呼んでいただければ、行きやすいが、……。

　鳥獣保護員も指導に熱心な方がいます。鳥類保護連盟では、指導者の紹介もいたします。

○　将来は、上記のようなことも含めて、愛鳥教育研究会としてできることを明らかにし広めていきたい。

○　福生市立第五小学校では、多摩川の自然が変化するので、植物の調査を社会教育で行なった時、学校にも自然観察のグループを作ろうということで、地域と子どもに引かれながらやってきた。やはり、都の自然調査から資料をいただいたり野鳥の会や保護に関心のある方など、外部の協力援助によるところが多かった。

— 愛鳥活動に必要な資料 —

○　愛鳥教育研究会のテキストが欲しい。

○　探鳥会用かけ図はないだろうか。

○　子どものことば、子どものかいた図による子どものための図鑑を作りたい。

（以下、紙面の都合で省略させていただきます）

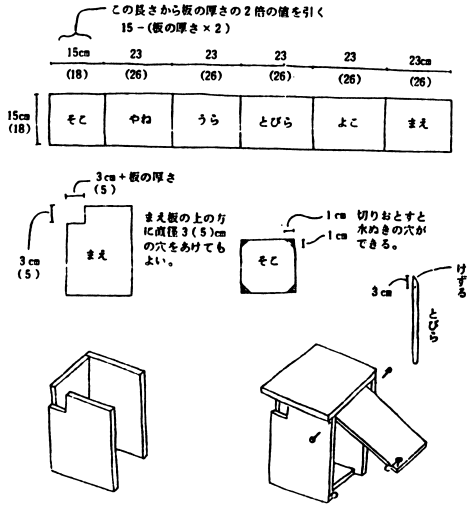
巣箱づくりの注意

野鳥を保護しよう　ということになった時に、具体的に何ができるだろう　を考えて、真先に思いうかべられるのが、巣箱づくり、巣箱かけでしょう。野鳥保護＝巣箱かけ　となるほど巣箱かけが野鳥保護の全てと考えられては困りますし、野鳥保護はそれほど簡単なものではありません。それに巣箱かけだけでは、巣箱を利用する鳥だけを増やすことになり、自然にとって必ずしも好ましいとは言いきれません。特に狭い範囲に何百、何千と架けたのではこの傾向が強くなってしまいます。

しかし、日本中の自然が単純化していく中では大切な面もありますし、子供たちに与える影響、例えば、自作の巣箱に鳥が入った時のうれしさといったことを考えると、小学校教育の中ではもっともっと推進されてよいものでしょう。

そこで　巣箱を作ろう　ということになります。しかし作ったが入らない。そこで熱がさめてしまう。といった式ができてしまい、野鳥に対する興味を失ってしまう例がすくなくありません。これは「巣箱」について具体的な知識が不足し、写真や絵でこのようなものを見たことがある。といった程度のことで始めてしまうため、野鳥の利用しやすい形や場所よりも、人の側の、こうしたものをこうした所に架ければ、鳥のためによいだろうといった思惑で、事が進んでしまうからでしょう。

シジュウカラ用巣箱の例（　）はムクドリ用寸法



巣箱についても、いくつかあらかじめ十分に考えなければならないことがいくつかあります。それは、

1. 巣箱を利用する種類が、その地域に生息しているか否か。
2. 架設場所。これについての誤りが多い。
3. 出入口である穴の大きさ。
4. 穴の位置。
5. 営巣途中での放棄。人がのぞくことによる害。

などで、こうしたことが満足させられなければ、たかが巣箱一つに野鳥が入ることさえないことになってしまうのです。

巣箱かけに限らず、野鳥保護に対するいろいろな行動の、まず第一にしなくてはならないことは、その附近にどんな種類の野鳥が棲んでいるのかを、年間を通して調べておくことです。できるならば、どのくらいの個体数がいるのか、量的なものがあれば申分ありません。野鳥誘致の施設づくり、自然的な生息環境づくりなど何を行なうにしても、事前のこうした調査はとても大切です。（野鳥を調べる。鳥をおぼえる。鳥のおぼえ方などについては、次回以降に記していきます）

学校周辺に、どんな種類の鳥がいるか。

1. 自分で調べる。（できるだけ量的にも）
2. 文献をあたる。（量的には不明のことが多い）
3. 附近に住む、野鳥に詳しい人に聞く。（量的にも少しわかる）
4. 日本鳥類保護連盟に問合せる。（文献を紹介する。附近あるいは県内で、野鳥を知っている人を紹介する）

こうして、その附近の野鳥の種類がわかり、その中に巣箱を利用する種類がいれば、その種類に合せた巣箱作りを行なえばよいことになる。シジュウカラ、ヤマガラ、ヒガラ、ゴジュウカラ、スズメ、ニュウナイスズメ、ムクドリ、コムクドリ、アオバズク、フクロウ、コノハズク、ブッポウソウ、キセキレイ、キビタキ、アリスイ、アカゲラ、オシドリなどがいわゆる巣箱を利用する種類であり、巣箱とまではいえないかも知れないが、巣台を架けるとツバメが利用することはよく知られている。

代表的な巣箱と利用する鳥

シジュウカラ用巣箱　シジュウカラ、ヤマガラ、ヒガラなどが使う。入口の穴をやや大きめにすれば、スズメが入る。

ムクドリ用巣箱　ムクドリ、コムクドリが利用する。穴を小さくすればスズメが入る。

巣箱作りの注意

穴の大きさ

利用させたい野鳥の体の大きさ、というよりも胴まわりの太さに合ったものが良い。穴は大きくても利用はするが、より体が大きな種類に、営巣中、抱卵中、育雛中などであっても奪われてしまうことも少くない。ヒガラ用で直径25～26㎜、シジュウカラ用で直径28～30㎜、スズメ用で32～35㎜、コムクドリ用45㎜前後、ムクドリ用50㎜、といったものになる。しかし、これほど厳密でなくとも野鳥は利用するし、また種類の中でも個体によって大きさが異なるので、このままでは入れない鳥もでてくることがある。これはあくまでも目安。

また、穴のある場所の板の厚さが、2～3㎜の薄いものでは、利用しない。8～10㎜程度は欲しい。

巣箱の中は暗さが必要で、巣箱内部に光が、入るような材質のものは使わない。

穴の位置

巣箱の上部にあることが必要で、シジュウカラ用では巣穴から15～20㎝以上の深さが必要。ムクドリ用ではシジュウカラ用ほど厳密ではないが、巣穴が巣箱の下部にあるものは利用されにくい。

穴の形

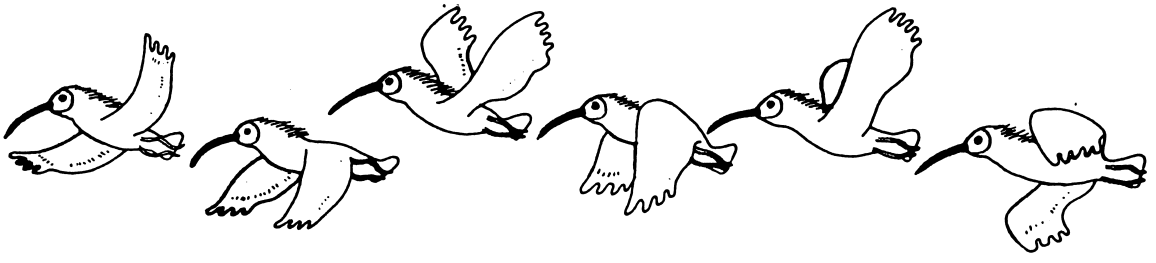
円形が、鳥の形に最も近いが、円形にこだわらなくてもよい。隅を切取った四角形のものでも十分。

その他

- 巣箱周囲の装飾はおおむね不必要である。杉皮をめぐらせば入り、白木のままなら入らない、ということはない。ただ材木は、新しいものの方が鳥には好まれるようである。
- 巣穴の前の止り木はない方がよい。あってもじゃまにはならないが、外敵にも止り場所となることを考えておくべきである。

（柳澤紀夫）

（巣箱架設の注意、利用した巣箱での観察法、などについては、次号へ続けます）



会費の納入

会費の納入は、郵便振替（東京２－９２０４１）愛鳥教育研究会、が便利です。連絡は日本鳥類保護連盟　（〒150 東京都渋谷区南平台町８－20）内、愛鳥教育研究会、宛でお願いいたします。

愛鳥教育　第2号目次

第2回愛鳥教育研究会の報告……(1)
●講演　自然観察の方法について
国立科学博物館附属自然教育園…矢野亮…(1)
●研究発表　広げよう愛鳥の輪を
愛知県蒲郡市立形原北小学校…渥美守久…(3)
鈴木武一
愛鳥観察計画……(7)
愛鳥・緑化・自然保護活動計画……(8)
意見交換会（80. 8. 23）の記録……(9)
巣箱づくりの注意　(1)
日本鳥類保護連盟…柳澤紀夫…(10)
お知らせ　全国鳥獣保護実績発表大会が開催…(2)
目　次・編集後記……(12)
入会申込書……(12)

編集後記　「愛鳥教育」第2号をお届けいたします。第1号発刊以降の動きとしては、当研究会の郵便貯金口座の他に郵便振替口座（東京2－92041）を開設しましたので、皆様の会費納入が安全で容易なものになりました。

全国の愛鳥モデル校などには、各都道府県の鳥獣保護の担当課長さんを通じて、あるいは直接に入会をおすすめしています。が現在までのところはかばかしくありません。各地の皆さんに、仲間づくり、会員勧誘を強くお願いするものです。

8月23日の理事会の席で、新しい理事として、
石橋寿春、東京都世田谷区立船橋小学校
早崎　辿、東京都世田谷区立赤堤小学校
の両先生に加わっていただくことになりました。

よろしくお願いいたします。　（柳澤）

愛鳥教育　No.2

1980年11月20日
愛鳥教育研究会　発行

〒150　東京都渋谷区南平台町8－20
（財）日本鳥類保護連盟内
TEL　03－461－0540
振替　東京2－92041

（きりとり線）

入会申込書

愛鳥教育研究会の趣旨に賛同し、会費二千円を添えて、入会いたします。

年　月　日

申込者　個人　団体（○をつけて下さい）
氏名　㊞
住所
電話

申込者の所属、職業
勤務先の住所、名称
電話